

公益信託高知市まちづくりファンドニュース

まちファン

21号

2013年10月31日



目次

2013年度 公益信託 高知市まちづくりファンド 公開審査会

書類審査

「まちづくりはじめの一歩」コース	P. 2
プレゼンテーション	
「まちづくり一歩前へ」コース	P. 3
公開審査会を終えて	P. 4

2012年度 公益信託 高知市まちづくりファンド 最終発表会

プレゼンテーション

「まちづくり一歩前へ」コース	P. 6
最終発表会を終えて	P. 7
運営委員の紹介	P. 7
「公益信託高知市まちづくりファンド」とは	P. 8
今後のまちづくりファンド（予定）	P. 8

公益信託 高知市まちづくりファンド 2013年度 公開審査会

2013年7月28日(日)開催の公益信託「高知市まちづくりファンド2013年度公開審査会」には、応募団体、一般合わせて約72名が参加しました。

A 「学生まちづくり」コース

■応募なし

B 「まちづくりはじめの一歩」コース

1 審査



事前の書類審査にて助成団体を選考し、公開審査会の場で発表。

2 団体の活動紹介



助成対象となった団体による事業内容の説明。

■「まちづくりはじめの一歩」コース結果(助成先2団体)

グループ名	申請額 (万円)	助成額 (万円)
1 秋山こだま会	5	5
2 ちっちゃなお店の勉強会	5	5
助成額合計		10

団体の活動紹介プレゼンテーション

GROUP 1 これから青春!! まだまだ青春!! 幸せの輪まちづくり

秋山こだま会



幸せの輪まちづくりをめざし、地域住民との触れ合い、特に絆を深めていき、福祉の向上につなげていきたい。また、それを近隣地域に広げていきたいと考えている。ふれあい講座を6回、ふれあい教室を月2回、計8教室の開設と合わせて知識と実技の熟達により、心身ともに豊かで、たくましい人財の育成につなげていく。若い方たちにバトンタッチをしていくべく、努力していきたい。

合わせて知識と実技の熟達により、心身ともに豊かで、たくましい人財の育成につなげていく。若い方たちにバトンタッチをしていくべく、努力していきたい。

GROUP 2 ちっちゃなお店の活性化で高知のまちを元気にしよう!

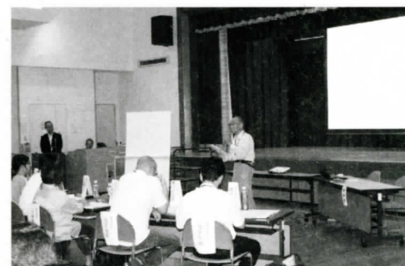
ちっちゃなお店の勉強会



ちっちゃなお店を活性化することで高知のまちを元気にしたい。まちづくりのはじめの一歩として、店を持ちたいけれど、踏み出せないでいる主婦や就活中の人を応援したり、実際に店を訪問し、問題点や改善点を指摘したりして、より良い店づくりについて考えていきたい。活動スケジュールは、今年の10月から2カ月に1回、高知市民とカフェ形式のワークショップを行う予定。初年度のため、仲間づくり、場所づくり、必要なサービスの発掘をしていきたい。

助成決定した2団体へ堀副運営委員長のコメント

「まちづくりはじめの一歩」コースの助成額は、5万円ですが、これも高知市民の大切な税金や寄付から成り立っています。この資金を活かし、活動が大きく花開くよう、頑張ってくださいと思います。



『まちづくり一歩前へ』コース

1 プレゼンテーション



各応募団体が事業内容を模造紙1枚に記載。3分以内でプレゼンテーションを行った後、3分以内で質疑応答

2 一次判断



各運営委員が、各応募事業について(a)(b)(c)の3段階の判断をする
※(a)(b)(c)については下表参照

3 質疑



一次判断で(b)(c)が多い事業への質疑応答

4 最終判断 助成事業・金額の決定



各運営委員が、助成対象として推薦する事業を選ぶ。
結果、過半数(5票以上)の推薦を得た事業が助成先に決定

グループ名	一次判断			最終判断		
	(a) 活動企画内容を持ち、今回のサポート助成が必要だと考える	(b) 活動内容についてもう少し話を聞き、今回のサポート助成が必要か判断したい	(c) 社会的に意義がある活動だが、サポートの助成趣旨にはなじみにくいと考える	今回の助成対象として推薦する	申請額(万円)	助成額(万円)
1 特定非営利活動法人 要約筆記 高知・やまもも	■■■■■■■■(8)			●●●●●●●●(8)	30	30
2 食を考える委員会	■■■■■■■■(8)			●●●●●●●●(8)	30	30
3 森の中の高知駅	■■■■■(4)	■■■■■(4)		●●●●●●(6)	30	30
4 こうちネットホップ	■■■■■(5)	■■■■(3)		●●●●●●(7)	30	30
5 高知街ラ・ラ・ラ音楽祭2013実行委員会	■■■■■■■■(7)	■(1)		●●●●●●(7)	30	30
6 特定非営利活動法人 高知障害者スポーツ地域振興会	■■■■■■■■(8)			●●●●●●●●(8)	30	30
7 特定非営利活動法人 福祉住環境ネットワークこうち	■■■■■■■■(8)			●●●●●●●●(8)	30	30
8 Sunday Market Supporters	■■■■■■■■(8)			●●●●●●●●(8)	17.1	17.1
助成額合計						227.1

プレゼンテーション

GROUP 1 要約筆記で情報バリアフリーのまちに！

特定非営利活動法人 要約筆記 高知・やまもも



要約筆記とは、聴覚障害者が聞こえないことで不利益を被らないように、その場の話や、その場で文字に付け替えることを言う。知名度が低く、まだよく知られていないため、活動紹介パンフレットの作成と、ホームページで動画を流し、当事者やその周辺の方々への周知、社会で何かをしたいという志のある方々に情報を発信したい。文字で意志の疎通が図れる要約筆記により、地域の中で、聴覚障害者も含め、お互いに支え合える社会を作りたい。

GROUP 2 食べることから始まる、元気なまちづくり

食を考える委員会



介護の現場では、生活支援するヘルパーが限られた時間の中で、食べることに十分な時間をかけられない現状がある。そこで、身近な材料で簡単に作れ、食事の質を上げるアイデアを盛り込んだレシピ集を作りヘルパーに活用してもらいたい。調理実習や専門職からの指導を受ける調理交流会を開催する予定。食べることから始めて、人とのつながりを大切にし、住み慣れた地域で、高齢者や障害者の方々が元気に暮らせるようサポートする活動をしていきたい。

GROUP 3 木を、花を植えよう、森をつくろう

森の中の高知駅



この運動を始めて4年目となり、少しずつであるが、高知駅周辺に木が植えられたり、土は掘らないけれども、ポットを設置して大きな木を育ててくれるようになった。今は、県の旅広場の駐車場付近、電車の側線の脇、面積120㎡を除草し、掘削して栄養剤を入れ、花を植えている。今後、冬の花、夏の花を順次入れ替えていく予定だが、水やりや除草等、維持管理は大変である。道を通る方の「きれいになったね」と喜ぶ声を励みに、日々努力していきたい。

GROUP 4 みんなで考えるホームレス支援と貧困問題

こうちネットホップ



講演会活動だけではなく、夜回り活動をより充実させ、月1回の活動回数を増やすと同時に、開始時間を深夜にできるよう検討していきたい。今年度も学習会を行い、貧困問題や格差の問題に触れてもらい、ホームレス支援の活動に参加してもらえる機会を増やしていく。また、前年度作成したリーフレットをより活用させていきたい。最終目標として、高知市の貧困問題の解決に向けて取り組むような体制づくりを進めていきたいと思っている。

GROUP 5 音楽の力でまちを元気に!

高知街ラ・ラ・ラ音楽祭 2013 実行委員会



認知度を上げるため、人と人とのつながりを作り上げていく。できるだけ多くの皆さんに出場してもらいたいのので会場数を増やし、クオリティを上げて、来場者に楽しんでもらえる催しも考えていきたい。また、人と人とのつながりという点で、他の団体と協力し、より良い音楽祭として認知度を上げていきたい。今年は、「タウンモビリティ」、「作業所ららら」、「がん相談センター」、「婚活サポーター」、「南相馬ファクトリー」と一緒に取り組む予定。

GROUP 6 障害者スポーツを通じて障害者理解を深め、共に生きる地域づくりをめざそう

特定非営利活動法人 高知障害者スポーツ地域振興会



障害者スポーツを通じて、さまざまな人々と直接交流し、障害者理解を深める機会をつくる。小中学校等に出向き、車いすラグビー体験や体験交流学习、障害者スポーツセンターでの体験教室を行う予定。また、障害者、健常者の分け隔てなく、一緒に参加できるスポーツ大会の開催も考えている。インターネットを使った広報活動も強化したい。障害のある人との心のバリアを取り除き、誰もが住みよい社会をつくるため、今後も地道に活動を継続していきたい。

GROUP 7 高齢になっても、障害を持って、出掛けたいまちの実現に向けて!

特定非営利活動法人 福祉住環境ネットワークこうち



障害者や高齢者の多くは、不便さや不安があり、商店街に出掛けることをあきらめている。なぜ街に出て来られないのか、考えている以上に理由があるのではないかと、ニーズ調査を行い、バリアフリーマップを作成する。また、広報の充実、報告書の作成、内部報告会の開催なども考えている。商店街の意識が変わり、バリアフリーな街になれば、本当の意味での「あったか高知」になると考える。目標は、誰もが当たり前前に安心して出掛けられるまちの実現。

Sunday Market Supporters



出店者サポートを中心に活動することで、楽しく笑顔で生き生きと出店できる環境づくりをめざす。毎週日曜日、休憩所、観光案内所の運営や出店者サポート、「SMS新聞」の発行、そして、挨拶回りや出店者の手助けをする「知ってもらい隊」の活動を開始。また、スタンプラリーや日曜市の食材を使ったサンドイッチ販売、クリスマスイベントを行う予定。新メンバーで役割分担し、活動もより充実してきた。企画がもっと良くなるように意見を出し合っていきたい。

二〇一三年度 公開審査会を終えて

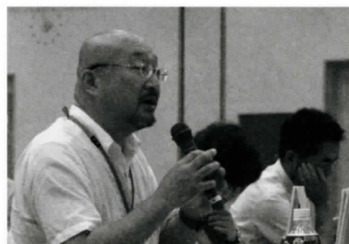
運営委員長 増田 和剛（高知中・高校学校教諭）

まちづくりファンド十一年目のスタートにあたって、運営委員のシールがこれだけ助成を推薦する欄に貼られた記憶はありません。皆さんが日々の活動を非常に短い時間で、分かりやすく説明してくださったおかげだと思います。短い期間で出されている応募用紙の意味合いも実感しました。皆さんの発表をお聞きする中で、普段の活動に問題は無いけれども、自分達の活動を全く知らない方に対して、どのように伝えていくか、という広報の問題や、その努力、姿勢が一番強く印象に残りました。高齢化や少子化など、社会の中には、いろいろな問題があって、市民一人ひとりがまちづくりに参加をするという意識をもつことで、そういう輪の広がりにおける問題というのは意外となくなるように思います。現実問題としては、なかなかそうはいきません。できるだけ多くの人の興味をもってもらうための社会のシステム、仕組みづくりが必要です。国や県、市がどうであるという責任転嫁をしてしまいがちですが、行政ができない部分を市民一人ひとりが意識をもって取り組み、継続していくことが、市民活動には大事なことでないかと思います。

今年六月に「こうちこどもファンド」の公開審査会が開催されました。そこでは、子どもたちが人生の早い時期からまちづくりに関わり、大人の社会に出ていきます。私たち大人の活動だけでは、広げることが難しくても、そういう意識をもったたくさん若い世代と、特定の地域というよりは、もっと広域のまちづくりというラッピングされた大きな形の中で、出合いの場所があることが必要だと思います。いずれ、世代交代を考える時期もやってくるでしょう。その時に、「こういう活動をしているんだよ」ということを次の世代に見せておくことが大事です。そのためには、いろいろな方面への広報や、模造紙の見せ方も非常に大事になってきます。山ほどあるチラシを、一枚一枚見ることが難しいですが、「何を伝えようとしているのか」という確認を続けていくことで、見せ方が分かってきます。このような方法でもって、子どもから大人まで、目に触れる機会、経験する機会を、このファンドでつないでいってほしいと思います。

今日はたくさんさんの意見を運営委員から皆さんに投げかけ、それぞれの団体がそれぞれの意見を述べてくれました。その様子を聞かれている他の皆さんも「ああ、なるほどなあ」と思われたことがあったと思います。それぞれの活動の中で悩みも多いと思いますが、公開会場に来られている皆さんは、まちづくりの意識をもって参加されているので、「これからどうしたい」というのがつなげていきやすいと思います。私たち運営委員は、推薦シールの一票の重さを感じながら、この「つながり」を生み出していきたいと考えています。それぞれの活動をこえた公開審査の場で、互いに意見を交わすことで、高知市のまちづくりを少しでも前進させ、いろいろな活動へとリンクさせていってほしい。

最後に、「高知市まちづくりファンド」が二期目に突入したということは、過去十年間のさまざまな活動に対する評価だと思っています。もちろん、皆さんがされている活動の結果がすぐに出ると思いませんが、一過性の活動ではないはず。継続していく中で、年次ごとの計画、活動内容をきちんとまとめ、いつでも発表ができる状態にしておくことも、将来、世代交代する上で大事なことだと思います。



公益信託 高知市まちづくりファンド 2012年度 最終発表会

2013年7月28日(日)開催の公益信託「高知市まちづくりファンド2012年度最終発表会」には、応募団体、一般合わせて約72名が参加しました。

≡ B 『まちづくり一歩前へ』コース ≡

1 プレゼンテーション



助成先団体が事業の報告を
模造紙1枚にまとめ、発表
■ソフトコース 3分間

2 意見交流



運営委員や参加者からの
感想、または質疑に対し、
助成先団体が応答

GROUP 1 みんなで考えるホームレス支援と貧困問題 1 こうちネットホップ



講演会と学習会の実施、こうちネットホップと支援団体等の紹介を書いたリーフレットを制作した。講演会を通じ、都市部で問題になっている「餓死」「孤立死」といった問題をより深く学ぶ機会を得られたと思う。今後は、夜回りの幅を広げるとともに、リーフレットを図書館やホームレスの集まりそうな場所に配布する。また、路上生活や貧困問題に取り組んでいる団体とのネットワークづくりも進め、より広範囲の支援体制を作っていく。

voice...

- ホームレス支援は、重要な課題であり、夜回り活動は重要な意味を成している。
- とても大切な活動なので、頑張りたい。
- 前年の活動において不十分であったことに対する解決策を考えている。

GROUP 2 音楽の力でまちを元気に！ 2 高知街ラ・ラ・ラ音楽祭 2012 実行委員会



10～30代前半の若いスタッフが入り、ステージをいいものにしよう、いいお祭りにしようという意見を交わしながらやっている。中央公園に、お客さんや出演者が集中してしまうことを解消するため、丸ノ内緑地に新たなステージを構え、音響のクオリティーも高め、2つ目のメインステージとした。実行委員もまちづくりに関わるメンバーだということを考え、勉強会等を開催している。また、次年度に向け、さまざまな団体ともつながっていききたい。

voice...

- ただの「音楽祭」で終わらず、他の「まちづくり」団体との繋がりが見え始めた。
- 大きなイベントに育っていきそう！
- 音楽には、人を元気にし、繋ぐ力があると思う。

GROUP 3 若者による土佐の日曜市の活性化に向けた取り組み 3 Sunday Market Supporters



シンポジウムの開催で、日曜市を地域に密着したものにしていけることが大事だということ共有できた。また、学生が日曜日に入ることで、より活気づいて見えるという意見も頂き、観光案内や休憩所が、観光客や地元客にとって必要不可欠な存在になっていると実感できた。今後、地元客も観光客も楽しめる新たなニーズに応える活動や外国版パンフレットの作成と、観光案内等を充実させると共に、商店街と日曜市をつなぐ役割を果たしていきたい。
※事業内容縮小による返戻金…86,823円

voice...

- 若い世代の方が、古い日曜市の活性化に参加し、新しい息吹を吹き込んで、将来の発展に繋がると思う。
- 日曜市に限らず、周辺地域を巻き込む企画が良いと思った。

GROUP 4 障害者スポーツを通じて障害者理解を深め、共に生きる地域づくりをめざそう 4 特定非営利活動法人 高知障害者スポーツ地域振興会



一緒に楽しみながら障害者理解を深めてもらうために、小中学校への出前交流体験教室を3件、スポーツセンターでの体験教室を6件実施。交流体験教室では、車いすです生活する障害者が参加し、好評を得た。障害者自身の社会参加の意欲向上のきっかけになればと考えている。課題に、車いすの維持管理や広報、ボランティアの不足がある。今後は広報に力を入れ、障害のある当事者の参加、ボランティアの増員、そして、多くの人が経験する機会を作りたい。

voice...

- やっぱり地道に活動しているのは、大変だけど必要。
- 車いすに乗ること自体、経験が無い方が多いと思うので、体験できる機会があることは良いと感じた。

二〇一二年 度 ソフトコース最終発表会を終えて

運営委員長 増田 和剛（高知中・高校学校教諭）

二〇一二年年度の助成先は四団体と少なかったですが、今回、どの団体からも「広がり」「つながり」といったキーワードが見受けられました。本来、行政等がやらなければいけないようなことを地道にしていこうという意識、そして自分たちは高知市の一員なんだという意識をもって、皆さん活動されていますね。高知市の一員であるということができるだけいろいろな形で広げ、その広がりの中で、少しでもたくさんの人に活動を知ってもらおうという意識があることも、それぞれの言葉や実践から感じることができました。

「こうちネットホップ」は、より広がりを持ち、いろいろな人とつながっていく。臨機応変に対応することによって、一人でも多くの人に、あかるいまち高知市で生活してもらいたい。貧困問題は無くならないだろうけれど、取り組みは続けていくという意志を感じました。

「高知街ラ・ラ音楽祭2012実行委員会」につきましても、昨年の発表段階では、あまり明確にはなっていなかった、まちづくりの一員であるというまちづくり活動団体としての意識や、まちづくりファンドを通して、いろいろなところと繋がり、連携していこうとする姿勢に好感がもてました。勉強会等の成果がどういうふうな形になるか、今後に期待したいと思います。「Sunday Market Supporters」の学生さんたちもまた、まちとつながっていこうという、熱い気持ちを非常に感じた団体です。まだまだやらなければならないことがたくさんあって、できなかったこともあったかと思いますが、若さでどんどん進んでいってほしいと思います。できないことを実現していくという気持ちは、まちづくりをする上で非常に大事なことのひとつです。

そして、「高知障害者スポーツ地域振興会」は、ボランティアを増やしていくにあたって、できるだけ多くの人に知ってもらいたい。そのためには自ら外に出て行って、いろいろなところと関わっていく。地道な活動の中で、つながりを大事にして、新しい発信のあり方を探求してもらいたいと思います。最後になりますが、まちづくりファンドの活用を通じて出会った助成先団体の皆さんには、できるだけ多くの人に広報して、つながりを築き、私たちの高知市を元気にしていってほしいと思います。

公益信託 高知市まちづくりファンド 2013年度 運営委員紹介

今年度より、新たに3人の運営委員が就任されました。



運営委員長
増田 和剛
高知中・高等学校教諭

日々の活動を如何にして、まちづくりへと発展させていくのか、その一つとして、活動をできるだけ多くの方に知っていただく広報活動がとても大切です。また、現在の活動を広げていく策としても、日々の様々な活動を知ることにより、活動をリンクさせ、新たな活動へと繋げていくことも重要です。



副運営委員長
堀 洋子
(社)高知県建築士会

今年度の「まちファン」は2期目の初年度として始まりました。応募された団体は、以前より多様な取り組みをされている方が多く、行政の決められた補助金枠では収まらない、市民目線の取り組みで高知市を楽しく、生き生きと暮らしたいという思いの応募で、新たな一歩として相応しい公開審査会でした。



運営委員
池 美保子
高知県立大学社会福祉学部

私は今回、学生運営委員という立場で、まちづくりファンドの公開審査会に初めて参加しました。審査を通して、自身のまちづくりへのイメージを覆されたり、高知市のまちづくりについて考えさせられたりと、まちづくりに関しての視点や考え方が広がりました。来年度はどんな団体がくるのか、どんなアイデアがでてくるのか、楽しみにしています。



運営委員
川崎 敬子
グラフィックデザイナー

今回は、地道に活動を続けている団体ばかりの応募でした。助成が決定して良かったです。ファンドをきっかけにジャンルの異なる団体がコラボして、さらに仲間を増やし、活動内容を多くの人に知ってもらえれば、審査会の存在自体が金額以上の助成になるのではないのでしょうか。



運営委員
川村 聡志
高知大学農学部

今回、事業を応募する側ではなく、審査する側として関わらせていただくことによって、大事なことが見えてきました。それは、徹底的に“お金がいらぬ方法”を考えることです。お金をかけない方法を突き詰めることによって実現したいビジョンが洗練されてくる。大きな学びをありがとうございます。



運営委員
近藤 昭仁
元高知市市民協働部長

今回は、申請書の段階で目的や活動内容が明確な応募団体が多く、まちを良くしたい、人を大切にしたいという熱意もはっきり伝わってきました。その結果が全ての応募団体が助成されるという素晴らしい審査会になったと思います。みなさんの地道な活動で、「まちづくり」がさらに広がるよう期待します。



運営委員
四宮 成晴
四宮計画事務所

公開審査会、いつもながら緊張感を強いられる一時です。市民の大切なお金を使うことへの厳しさと難しさ、公平性をもって、応募団体の熱い思いに自分を律しつつ、受けとめることに心が軋む中、なんとか踏ん張っています。



運営委員
野村 清司
社会福祉法人明成会

今年より運営委員として参加させて頂きます。まちづくりには、大変関心を持っていますが、運営委員の活動は初めてですので、いろいろと皆さんに教えて頂きながら、高知市民として頑張っていきたいと思っています。



運営委員
宮地 貴嗣
ラ・ウィータ 宮地電気(株)

助成申請いただいた皆様の事業に対する取り組みに敬服しました。高知市民の税金から拠出した貴重なお金を高知市のまちづくりのために役に立てていただきたいです。一部の方の満足ではなく、高知市が住みやすく、生き生きとした誇りのあるまちになりますように祈っています。

公益信託高知市まちづくりファンド

助成コース紹介

A: 「学生まちづくり」 コース

活動の第一歩を踏み出そうとしている、または、活動が定着していない学生団体の活動を支援します（構成員のうち3名以上が18歳以上の学生であること）。

助成金額 上限5万円

審査方法 書類審査で助成先を決定します（助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます）。

B: 「まちづくりはじめての一步」 コース

活動の第一歩を踏み出そうとしている、または、活動が定着していない市民団体の活動を支援します。

助成金額 上限5万円

審査方法 書類審査で助成先を決定します（助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます）。

C: 「まちづくり一歩前へ」 コース

市民団体が継続して行うまちづくり活動を支援します。

助成金額 上限30万円

審査方法 公開審査会において、活動の内容について発表をしていただき、公開審査で助成先を決定します。

D: 「まちづくり拠点整備」 コース

まちづくりの活動拠点を整備する事業を支援します。

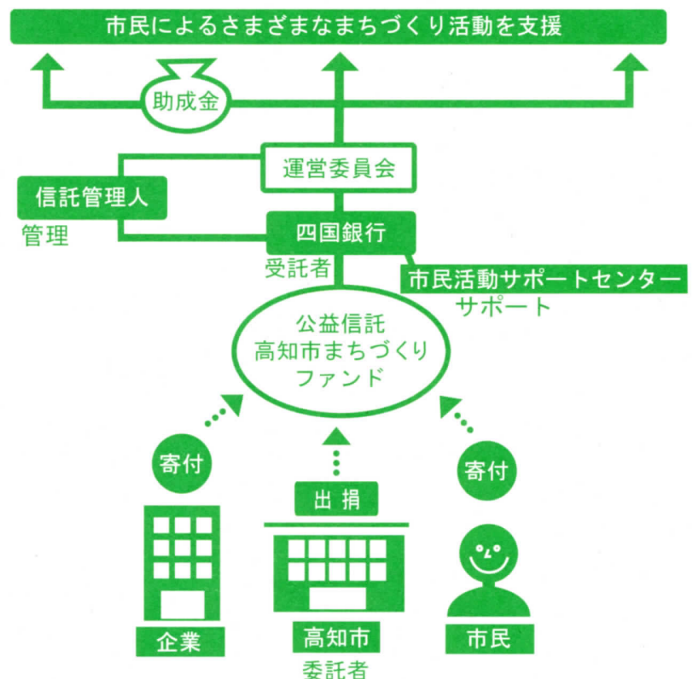
助成金額 上限100万円

審査方法 公開審査会において、活動の内容について発表をしていただき、公開審査で助成先を決定します。

お問い合わせ先

高知市市民活動サポートセンター TEL:088-820-1540

公益信託「高知市まちづくりファンド」は、「市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例」に基づき、まちづくり活動団体への助成を目的に、2003年5月、高知市が四国銀行に3,000万円を出捐（しゅつえん）して創設、また、2012年4月、改に3,000万円を追加出捐しました。助成先は公開審査会で決定し、透明性の確保とともに、市民同士の交流や、まちづくりの学びの場となることを目的としています。公益信託「高知市まちづくりファンド」の11年目となる2013年度からは制度を一新し、より利用しやすい助成金制度に変わりました。これからも多くの人にまちづくりに興味をもってもらい、まちづくりに参加するきっかけとなるような運営をめざしています。



高知市市民活動サポートセンター 市民活動の輪を広げようと、1999年4月に高知市が設置した施設です。運営を「認定特定非営利活動法人NPO 高知市民会議」が担っており、ボランティアや市民活動に関する様々な相談や情報の提供、活動に必要な機器の利用や会議室の貸し出しにも応じています。仲間を広げたり、活動のお知らせをする掲示板や団体が利用できるメールボックスもあります。活動の参考になる講座等も開催していますので、お気軽にご活用ください。

まちづくりファンドは皆様がまちづくり活動を支援する仕組みです。

まちづくりファンドの創設にあたり、高知市から出捐（しゅつえん）された基金は、毎年取り崩しながら助成していくこととなります。少しでも永くまちづくりファンドが市民のまちづくり活動に活かされるように、多くの皆さまのご寄付をお願いします。

寄付に関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。

株式会社 四国銀行
 お客さまサポート部 信託担当
 〒780-8605 高知市南はりまや町1丁目1-1
 電話：088-871-2308（直通）

今後のまちづくりファンド(予定)

B「まちづくりはじめての一步」・C「まちづくり一歩前」コース

中間発表会	2014年1月26日(日)
最終活動報告書	2014年7月4日(金)
最終発表会	2014年7月26日(土)

発行 高知市市民活動サポートセンター

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階
 【TEL】088-820-1540 【FAX】088-820-1665
 【E-mail】npokochi@siminkaigi.com
 【URL】http://www.kochi-saposen.net/

R100
 古紙配合率100%再生紙
 を使用しています